

岡山県吉備中央町

体験内容（受入レポートから）

町内視察

農作業体験

（とうもろこし等の収穫、野菜・くだものの管理、畑の土づくり）

報告者

市町村　　：根本喜代香（協働推進課）

体験調査員：加納　健太（近畿大学）

河原　孝行（立教大学）

平成 21 年度若者の地方体験交流事業
(地域づくりインターン事業)
受入レポート 岡山県加賀郡吉備中央町

受入期間：平成 21 年 8 月 16 日～8 月 29 日まで (14 日間)

体験調査員：加納健太 (近畿大学 3 年生)

河原孝行 (立教大学 3 年生)

担当者：協働推進課 根本喜代香

地域の概要

本町は岡山県の中心に位置し、総面積 268.73 平方キロメートル、人口約 14,000 人弱の町です。南は県都岡山市に接し、その岡山市から本町の中心部までは車で約 1 時間、岡山空港からは約 30 分の距離にあります。また、町内に中国横断自動車道岡山米子線の賀陽インターチェンジが設置されています。このような町の位置や交通環境、そして町のほぼ中央にある吉備高原都市は本町の大きな特性となっています。

地形は、中国山地と南部平野の中間にあたり、標高 100～500 メートルの高原地帯で、比較的なだらかな丘陵地の合間を宇甘川などの中小小川が旭川、高梁川へ流入しています。

気候はやや内陸性で、県南部と比較して冷涼な地域です。

受入の目的・ねらい

本町は、安全、新鮮、おいしさを提供できる農業を営むとともに、農村環境の多面的な活用を推進し「農業立町」をめざしています。しかしながら、総人口は減少局面を迎えています。が、大首都圏で生活している UJターン志向の若者も少なくありません。

そこで、そのような若者に地域の生活を体験してもらうことにより、地方の現状を理解してもらうとともに、フレッシュな感覚をもつ外部の目から見た地方の取組みへの評価を行ってもらい、今後のまちづくりに活かそうと受入を行いました。

地域においては、若者に刺激され活性化されていく。また、町の問題点に対する提言をいただく。

- (1) 吉備中央町の魅力は何か。
- (2) 町がかかえる問題点は何か。
- (3) 地域の活性化に向けてどうしていったらいいか。

大都市圏の学生等においては、地域の暮らし、活動、産業の体験を通じ、地方の良さを知ってもらう。

一つの町でも地方の暮らしは様々なものがあることを知ってもらうため、宿泊は民泊(ホームステイ)とし、体験内容は農業を産業としている農家の体験と、一般的に生活していける農業、農業公社のように幅広く農業の受入をしているところと三種類に分けました。

受入内容

(1) 体験内容

- ・町内視察
- ・農作業(とうもろこし等の収穫、野菜・くだもの管理、畑の土づくり)体験

(2) 活動の拠点・宿泊形態

農家民泊

スケジュール

日程	時間	体験内容	体験場所
8/16(日)	12:00~	岡山駅迎え	
	13:30~17:00	刈エントーション・県内視察	井倉洞
8/17(月)	9:00~9:30	町長との面談	町役場
	9:30~17:00	町内視察	町内
8/18(火)	7:00~12:00	ぶどう園ビニール取りと枝下ろし	体験農家
	13:00~17:00	〃	体験農家
8/19(水)	5:00~12:00	とうもろこし収穫・選別・配達	体験農家
	14:30~16:30	乗用芝刈機体験	体験農家
8/20(木)	5:00~12:00	とうもろこし収穫・選別・箱詰め	体験農家
	13:00~17:00	〃	体験農家
8/21(金)	9:00~12:00	ぶどう園ビニール取りと枝下ろし	体験農家
	13:00~16:00	ともろこし配達・軽作業	体験農家
8/22(土)	7:00~9:00	とうもろこし選別	体験農家
	9:00~12:00	円城観光・ピオーネ剪定	体験農家
	13:30~18:00	ピオーネ剪定・土壌耕す	体験農家
8/23(日)	10:00~16:00	トフトボール大会(農家チーム対抗戦参加)	新見市
	20:00~22:30	川合神社夏祭り	町内
8/24(月)	8:00~12:00	白菜の芽摘み・苗植え	体験農家
	13:30~18:00	ピオーネの剪定・トラクターで土壌作り	体験農家
8/25(火)	8:30~12:00	白菜の芽摘み・苗植え	体験農家
	13:30~18:00	ピオーネの剪定・キャベツ畑の土壌起こし	体験農家
8/26(水)	9:00~16:30	ブルーベリー収穫・選別 作年度インターンとの交流	農業公社
8/27(木)	8:30~17:00	報告書作成	町役場
8/28(金)	10:00~12:00	報告会	町役場
	12:00~13:30	食事会	町役場
	14:00~17:030	県内視察	倉敷市
8/29(土)	9:00	あいさつ、離町	

活動内容紹介

(1) 町内視察

まず、町の様子を知ってもらおうと、1日かけて町内視察をしました。広い大地や動物たちは都会では見られないためか、少なからず感動があったようです。

町の迎賓館「片山邸」で、昔から伝わる「くさぎなのかけめし」を味わいました。

【くさぎなのかけめし】▶



(2) 農作業体験

ぶどう園のビニール取り・枝下ろし

春先にかけてという、ぶどう園のビニール取りの作業を行いました。長い長いビニールを手元へひっぱりまとめます。雨降りの日には困難な作業です。

また、長く伸びすぎた枝下ろし作業は、「この枝を切っているのかな」と、最初にハサミを入れるのに勇気が必要でした。

【ビニール取り作業】▶



とうもろこし収穫

朝4時半起床。まさかこんなに早くから収穫するとは！朝露に濡れながらの体験でしたが、「パキッ！パキッ！」という収穫の音が心地よく、眠い身体がシャんとするようでした。このとうもろこし、生で食べると、とても甘くジューシーでした。

【とうもろこし収穫】▶



畑の土壌を耕す

広い広い畑を耕しました。片山さん(受け入れ農家)が耕すと管理機はまっすぐ進みます。なのに体験調査員はなぜかジグザグに。植えられているキャベツを傷めないよう、力がはいりました。この頃から、農作物の「かわいらしさ」を感じるようになりました。

【土壌を耕す】▶



ブルーベリー収穫

実った粒の見分け方等を教えていただき、一粒づつ丁寧に摘み取ります。暑い日差しの中の地道な作業。でも時々、味を確認するのが楽しみです。

ここで、昨年度のインターン生と交流ができました。

【昨年度インターン生とブルーベリー収穫】▶



昨年度事業との比較

昨年は、初の取組みであったこともあり、何でもたくさん体験したいという気持ちから、フリーの日も休みなく体験したため、最終的に体を休める時間が不足したようです。

今年は、フリーの日には農家の野球チームに入れてもらって試合に出場するなど、リフレッシュができたようです。

また、体験地域も一つの地域だけでなく、幅広く広げていくことができました。

今回は、受入れ市町村も受入れ農家の方も2年目ということで、市町村はスケジュールの組み方等に悩みが少なくすみ、農家では様々なお話を聞くことができたようです。

受入の成果

(1) 受入の成果・評価

インターン生の二人は、町長から、若者の視点から見た吉備中央町の魅力は何か、その魅力をどのように活かしていけばよいか等を調査する「田舎みつめなおし隊」に任命されました。

これらのことをふまえ、農業体験を通じて見えてきたこととして、町内に居たままでは気づかない町の魅力、そして、魅力と表裏一体の問題点、町に関する問題点を掲げ、地域の活性化に向けてどのような対策が必要か、貴重な意見をいただきました。

農業の体験は、自然と向き合うこと。経験がものを言うということを体で感じ、自然との付き合い方も少しながらつかむことができたようです。人間は、日が昇れば起きて働き、働いてお腹が空く頃が丁度正午。そしてまた働き、日暮れとともに家に帰る。こんなに自然体でいられた二週間は若い二人には初めてのことでないでしょうか。

受入家族は若い力に刺激を受け、今まで以上に張り切り、これから新たな交流も始まります。お互いそれぞれ得るものがあったと言えます。

また、昨年のインターンの2人も、それぞれ第二の故郷のように何度となく来町してくれており、受入家庭との交流が続いていることや今年のインターン生と交流の場を持つことができたことも成果の一つではないでしょうか。

(2) 今後の期待・展望

インターン事業は、数回実施しただけではその事業効果は表れません。

しかし、今後もこのような事業を行うことによって、年々、都市と地方の間に広いネットワークが築かれていくことは確実でしょう。インターン生は「農業は、実は魅力的な産業であると肌で感じた」と口にしていました。

この先も、若い学生が様々な体験を通して大地がもたらす恵みを身体で感じ、町の産業が活気づき、新たな可能性が生まれていくことを期待します。

【派遣地域・期間】

岡山県吉備中央町 8月16日～29日

【体験調査員】

近畿大学 理工学部 社会環境工学科 3年生 加納健太

【派遣地域の紹介】

岡山県の中心に位置し、賀陽町と加茂川町が手を組み吉備中央町となる。気候では昼間は暑く、朝夜が寒いのが特徴である。風習としては、昔ながらのお祭りが伝えられている。しかし若者が都会に行き伝える人がいなくなってきたり、規模が小さくなってきている。

【体験内容】

町内観光、トウモロコシの収穫体験、地域の人とソフトボール大会、川合祭り体験、種まき、草刈り、土を耕す、ぶどうの剪定・ビニール取り、ブルーベリー収穫体験

	午前	午後
8/16		井倉洞見学
8/17	町長表敬訪問、町内観光	
8/18	ぶどうの上のビニール取り・枝おろし	
8/19	トウモロコシの収穫・選別	草刈り
8/20	トウモロコシの収穫・選別、山陽新聞の取材	味来・きたあかりの箱詰め
8/21	ぶどうの上のビニール取り・枝おろし	美穂の里に納品、封筒にパンフレットを詰める
8/22	トウモロコシの選別、円城観光、ぶどうの剪定、畑を耕す、カボチャ収穫	
8/23	ソフトボール大会、千屋牛の焼き肉、川合神社祭り	
8/24	白菜の成長不足の芽を取る・種植え	ブドウの剪定、トラクターで土を耕す
8/25	土を耕し、ほうれん草の種まき	ブドウの剪定、土を耕す
8/26	ブルーベリー収穫・選別	
8/27	レポートの案を出す	レポート作成
8/28	報告会	倉敷観光
8/29	吉備中央町を去る	

【活動内容】

- ぶどうのビニール取り・枝おろし

吉備高原ファームでぶどうの木の上にかけてあるビニールを取る。風通しを良くする事と、葉に直接日光を当てるためである。また枝おろしでは、日光が当たっていない葉がな

く平等に当たるようにする。



- トウモロコシの収穫・選別

朝の4時半に起床しまだ寒くて、暗い中露に濡れながら収穫を手伝った。おじさんたちは手慣れていて片手でどんどん収穫していく中、ぼくらは両手を使い下手なりに頑張った。選別では、虫が入っていないか、形は悪くないか、自分がもしこれをもらった時に納得できるかを考えながらの作業だった。どうせ自分が食べるのではないからと適当にやるのではなく、地味な作業かもしれないがここが最も重要で見落としやすいポイントではないかと思った。また草刈り体験もした。

- 片山様宅

ピオーネの剪定は、他の家では普通冬にやるものらしいが冬だと枝が硬くなり切りにくいという事で今の時期にした。剪定をしながら枝に虫が入っていないかも確認した。ただ一つの事を何となくやるのでなく、他の事も見られて一人前だと思う。1WAY3JOB、1回の動作で3の仕事をして帰ってくる。例えばこの剪定なら袋に包まれていない形が悪く小さい実を切る。これで3の仕事になる。日々自分ができる最善の策を考えていく。この大切さを改めて肌で体験することができた。

土を耕す・種蒔き作業で簡単に機械を使っているように見えても実際してみると難しいものばかりだった。地道な反復作業があってこそその技術である事がわかった。



白菜の芽の成長が遅れているのを取る。機械で植えるため成長しないのまで植えてしまふからである。この種を植える事もした。これもいろいろな機械を使ってした。



川合神社祭りでは毎年歌舞伎などのわらや竹で作った人形に紙の衣装を着させた「だし」と呼ばれる人形を奉納している。また踊り方がわからなくてもみんな自然と溶け込んで踊れるのも特徴である。



● ブルーベリー収穫体験

何でも取っていい訳でなく、加工にするのかそのまま出荷するのかも違ってくる。また収穫したものは傷があったり小さかったりするので1個1個選別する必要がある。この作業は本当に繊細な作業だと思った。



【参加動機・成果】

一般の会社にインターンシップに行くのが普通だが、これといって体験したいものもなく、迷っている時学校の掲示板で見つけた。普段から農業には興味はあるが、実際それで生きていこうと思うと収入が不安で一步前に踏み出せなかった。というのも田舎が愛媛でみかん畑を経営していて話を聞くと全然もうからないらしい。そんな話を聞いて現在の不況の時代を生き抜く自信がなかった。そんな時にこれを見て是非農業体験してどのように暮らしているのか見たかった。また学校で町づくりの勉強もしているので参考にしたいと思って応募した。岡山県吉備中央町を選んだ理由としては交通費が自腹で遠くまで行きにくかった。また体験内容が農業中心であった。実際この2点から選んだ。始めはこんなあいまいな考え方だったんですが実際体験して、思ってもみなかった新しい発見がたくさん

ありました。まず吉備高原ファームの方々と出会い、農業は会社のように大勢の人が集まって、さらに工場と一緒に経営するのもありなんだと思いました。農業は農業だけで家族で経営するのとばかり思っていた自分には思いもつきませんでした。また話を聞くと脱サラで農業を始める人もいるらしくその人は、喫茶店を運営しながらでした。農業公社では農業をしたい人を集めて教える制度があって、独学で始めるのは難しいと思うのでこのような制度は食料自給率の低い日本には必要な事だと思った。

【提案】

百姓王国と言っても看板が立っているくらいで面白みに欠けると思うので、スタンプラリー制度を導入して子供でも楽しみながら農業見学できたらいいと思う。

加茂川町と賀陽町が合併した割に町民同士の交流が少ないと思うので、スポーツ大会や合併記念祭り、交流推進委員会など設けたらいいと思う。

地域のニーズがあまり満たされていないと思ったので、気軽に意見できるように目安箱を置くのもありではないかと思います。

身障者でも収穫体験できる所があるがそれを町全体でやれば、本当の福祉の町としてたくさん人が集まると思う。そのためには健常者もそうですが体験していただいた方に意見を求めていくといいと思う。

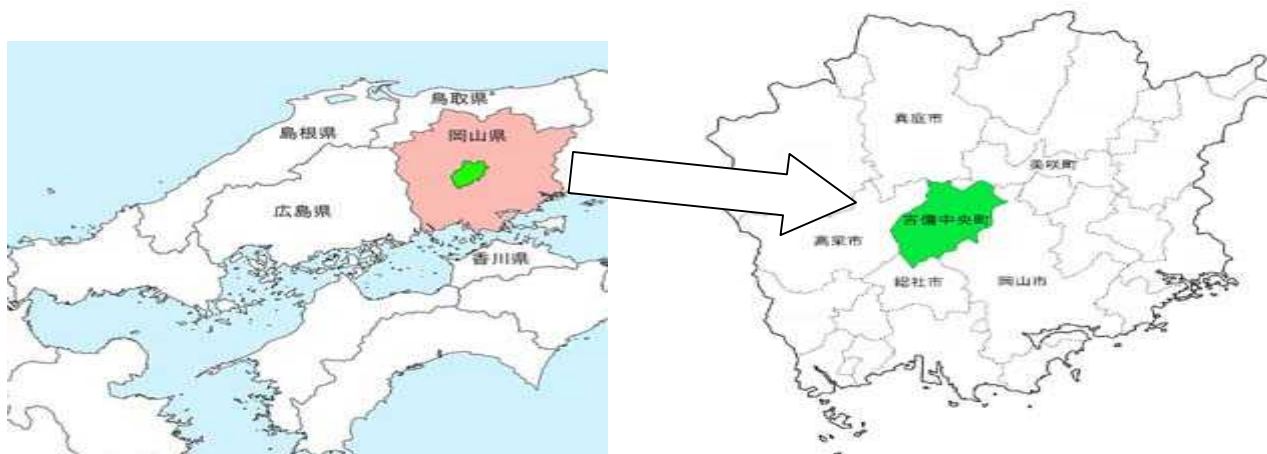
平成21年度 若者の地方体験交流支援事業報告書

岡山県吉備中央町 体験期間 8月16日～8月29日

立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年 河原孝行

派遣地域の概要

平成16年10月、賀陽町と加茂川町が合併し吉備中央町が誕生した。吉備中央町は岡山県の中央に位置しており岡山市・総社市・高梁市・真庭市・美咲町に隣接し、いずれも通勤圏内である。地形は中国山地と南部平野の中間にあたり標高100m～500mの高原地帯であり、気候は冷涼。加えて、緑や自然が豊かで過ごしやすい。こうした自然環境を活かし、水稻・果物・高原野菜などを栽培していて、農業を主に基幹産業としおり、『農業立町』を推進している。空気は都会に比べはるかに澄んでいて、全国4位である星空は一見の価値がある。一方で、吉備中央町も全国の農村地域の例にもれず、過疎化が進んでいる。人口13736人(平成20年4月現在)は、昔と比べて減少しており人口流出がとまらない。農業従事者も減っており、後継者不足が懸念されている。(下記の図は吉備中央町HPより)



参加動機

私が地域づくりインターン事業に参加したのは、農業で職業体験ができて、なおかつ自分が専攻する学科のテーマである「まちづくり」を農業主体で考えることは、疲弊している日本の農村地域の課題を見直すことと同義であり非常に有意義であると考えたからである。また、「まちづくり」を大学の講義中、机上で考えるだけでなく、実際にフィールドワークとして肌で体感したいとも考えていたことも一因だった。それは実際に体感しなければ分からない地域なりの実情・課題・疑問点があるはずだという信念による。以上の理由から絞った結果、吉備中央町の募集要項と私の志望する体験事業が多く合致していたので当該地域を希望した次第である。

スケジュール&体験内容

	体験内容	宿泊先
8月16日	鍾乳洞見学	山本陽子様宅
8月17日	町内視察	山本陽子様宅

8月18日	ぶどう農園のビニール取り&枝下ろし	山本陽子様宅
8月19日	トウモロコシの収穫&選別&配達 乗用芝刈り機の試乗	山本陽子様宅
8月20日	トウモロコシの収穫&選別 ジャガイモの梱包	山本陽子様宅
8月21日	ぶどう農園のビニール取り&枝下ろし ジャガイモの配達	山本陽子様宅
8月22日	加茂川円城の見学(岩倉山・円城寺) ピオーネ(ぶどう)の剪定	片山紀彦様宅
8月23日	農業組合対抗ソフトボール大会に参加 優勝 川合神社祭りを 見学	片山紀彦様宅
8月24日	白菜の苗植え ピオーネ(ぶどう)の剪定 トラクターを操縦 し土壌を耕す	片山紀彦様宅
8月25日	ほうれん草の種まき ピオーネ(ぶどう)の剪定 キャベツ畑 の土壌を耕す	片山紀彦様宅
8月26日	ブルーベリー収穫&選別	藤原守様宅
8月27日	報告書作成	鴨崎様宅
8月28日	報告会	鴨崎様宅
8月29日	帰宅	

活動内容紹介



ぶどう農園のビニール取り



ジャガイモの選別



トウモロコシの収穫



トウモロコシの選別

私たちが滞在した期間、農業はそれほど忙しくなかった（農繁期ではなかった）為、作業自体に大変なものはあまりなかった。ただし、トウモロコシの収穫日は朝4時30分起床、5時00分から収穫とハードな日程だった。農家の人は日の出とともに活動を始め、日の入りくらいに仕事が終わるのかなと勝手に思い込んでいたがとんでもなかった。夜明けを待たず、薄暗い中からトウモロコシをポキポキと採り、収穫した後に朝飯というから驚きだった。しかし、それもそのはず。収穫した鮮度の良いものをその日のうちに出荷しようとするなら、そうしなければ間に合わないのだ。

ピオーネ（ぶどう）の剪定や、ぶどう農園のビニール取りは地味な作業だが労の伴う作業だった。ぶどう農園は法面に作られていることが多いため、端から端への移動だけでも大変だった。また、剪定作業と同時に、蛾の幼虫が木に寄生していないか枝を細かくチェックしていくのも骨が折れる仕事だった。しかし、それをしないと木が侵され、全く使い物にならなくなってしまうというので、チェックは怠れないという。



トラクターを操縦して畑を耕す



キャベツ畑を耕す



ブルーベリー収穫



ほうれん草の種まき

トラクターを操縦することは難しそうに見えるが、以外に簡単だった。ただし、切り替えしや方向転換は難しかった。細かい操作はやはり慣れが必要だなと感じた。逆に、右上の写真は手動の機械を使ってキャベツ畑を耕しているところであるが、これは、簡単そうに見えて難しい。登りの斜面は幾らか楽だが、降り斜面はハンドルを持っていかれる。私たちは力で抑えようとするが、おじいさん曰く、「そ

んなに力は要らないよ。それは余分な力が入っとる。」とのこと。ブルーベリー収穫は小さな実を一つ一つ採らねばならず、根気の要る作業だった。ほうれん草の種まきは、なんととっても、真っ直ぐ進まない。おじいさんはスイスイやっていて、傍目から見ると簡単そうなのだが。百見は一行に如かずといったところか。

地域への提案

吉備中央町で2週間、見て・聞いて・感じたことを振り返って、地域活性化を促進するための3つの提案を述べる。

吉備中央町は「農業立町」を推進しているだけあって、農業公社のニューファーマーズ制度・体験農業の受け入れもしっかりしている。これらを利用して新規就農する人々のために奨学金制度を導入する。これは独立してから事業が起動にのるまでを対象とする。ぶどうを育てるにしても木が生長するまで少なくとも2～3年はかかる。それまでの間、生活や自立を補助することを目的とする。農業を目指す若者がどういう農業をしたいか学ぶ制度をつくる。例えば、吉備国際大学に農学部を設置するとか、近くに農業短大・農業専門学校を新設するなど。これらを修了した者はニューファーマーズ制度に優遇される等の政策をとる。メリットとして、若者が集まり斬新敵なアイデアが生まれる。新規就農者が増え、休閑地を有効活用できる。

農業体験は必然的に長期滞在になる。そこで、それを利用しながら滞在型観光できる仕組みをつくる。吉備中央町はどこの町へも訪れやすい。吉備中央町を軸に観光を促すことはできないか。

地域づくりインターンに参加して

正直にいうと、吉備中央町に実際に来るまでは、今回のインターンに参加が決定した後でも農業にはそれほど関心がなかった。しかし、インターンに参加する前と後でこれほど農業に対する姿勢が変わるとは予想していなかった。というのも、今私たちは職業を選択する自由が与えられているわけだが、来る前は農業を職業にするなどと考えたことはただの一度もなかった。小さい頃から農業に関わることもなく生きてきた私にとって、農業を職業になどと考える機会すらなかった訳だ。しかし、来た後では、農業で、特にここ吉備中央町で暮らしを立てるのも一考かな、程度に態度が軟化している。農業体験を通じて、それほど農業というのは悪いものではなく、結果的に虐げられているといえる現状は見直されるべきだと感じた。むしろ、食料危機が懸念される昨今にあっては重要な産業の1つに数えられていいはずだ。

さて、吉備中央町はその地形の利と冷涼な気候を活かして、最適な農作物であるぶどう（主にピオーネ）をメインに栽培し農業立町として成り立っている。しかし近年、若者の農業離れ、人口流出が目立ち、必然的に後継者がいないなどの深刻な問題が増えている。対策として、農業公社が新規就農者を募ったり、農業体験を盛んに受け入れたりする体制を整えている。これはこのまま続けていくべきだと思う。農業は実は魅力的な産業であると肌で感じてもらうことが大切だ。それが、ひいては農業立町である吉備中央町の魅力を認識することにつながるだろう。

最後に、担当だった根元さん、戸田さん、受け入れ先の皆様、大変お世話になりました。吉備中央町で過ごした2週間で僕は忘れることはないでしょう。お陰さまで吉備中央町が大好きになってしまいました。僕に出来る範囲でこれからも吉備中央を応援していきたいです。

